

自然システム学専攻	研究分野	生態学・保全学	Lab. ID NS02
研究室Webサイト	http://natsys.w3.kanazawa-u.ac.jp/research/lab/bio_09.html http://ecology.s.kanazawa-u.ac.jp/lab3/ecologylab/ecologylab.html http://ecology.s.kanazawa-u.ac.jp/lab3/Ohkawara3/INDEX.html (大河原個人サイト) http://www.usio24111.net (西川個人サイト)		
研究課題の概要			
<p>生態学は生物と環境の関係を扱う学問分野です。野外調査を基本とし、個体から個体群、群集、生態系、景観、地球スケールの多様かつ複雑な生物・生態系現象の解明を目指します。一方、保全学(保全生物学)は、生態学を軸とし、自然科学と社会科学の多様な研究手法を併用して生物多様性や生態系の保全・再生を目指す学際研究分野です。生態学・保全学の知見は、農林水産業の技術開発や、感染症の制御、希少生物の保全、自然保護区の管理といった応用分野でも活用されています。研究対象や視点は教員により異なりますが、主たる研究テーマに<アリ類と鳥類を対象とした行動生態学/群集生態学><菌類と動物の相互作用><環境変化と疾病媒介蚊や病害動物の関係><生物多様性の保全と再生に関わる研究><生物共生農業の振興に基づく環境再生と地域再生><外来種の侵入リスク評価と管理>などがあります。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>研究分野全員で学生の研究報告、論文紹介、外部研究者を招いての講義を教員主導で行い、大学院生主導で院生ゼミを開き年によりテキストを読了したり生物統計の勉強会などを行っています。都野研究室では全体のセミナー以外に研究室単位で毎週進捗状況報告を行い、研究に直結する内容の論文や教科書の勉強をします。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>動物が活発に活動する春から秋にかけては、学生たちも野外調査に出払っている事が多く、ラボワーク中心の研究室に比べると学生の居室は閑散として見えます。しかし採集や捕獲してきたサンプルの処理や化学分析、分子実験をする学生もいます。また鳥類や哺乳類を研究対象にしている学生は秋から冬にかけても野外調査に出かけています。12月になると調査を終えた学生たちがデータ解析や論文執筆のため研究室にいる時間が長くなり賑やかになります。また秋や春に開催される学会で研究成果を発表をする学生もいます。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>◎すぐ役に立つことをするヒトと、何の役に立つのかわからないけど面白いことをするヒト、どちらもいるから、科学はいつまでも面白いのだと思う。多様性が持続性を支えます (都野)。</p>			
<p>◎自然界には不思議な生物がたくさんいますが、それに対する興味や関心は誰かから教えてもらうことではありません。野生生物の姿を面白いと感じたいのであれば自分の眼で見て、そして考えてみてください(大河原)</p>			
<p>◎生物多様性が人間社会にもたらす恵みは計り知れません。生物多様性の保全と人間活動が調和する方法をともに考えていきましょう(西川)。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2021.3	カマドウマを中心にした夜行性キノコ食昆虫の生態学的研究		
2020.3	鳥散布共生系ネットワークにおける特殊化した相互関係の成立とその要因について		
2020.3	農業害虫と施肥の関係-食物網におけるトップダウン・ボトムアップ双方向からの解析		
2020.3	Application of bamboo biomass resources in agrochemical-free rice farming (無農薬稲作における竹バイオマスの活用)		
2019.3	木材腐朽菌子実体を利用する甲虫類による宿主菌胞子散布		
2018.3	里山資源を活用した環境配慮型稲作技術の検討		
2018.3	水稲自然栽培の履歴の違いが水田の節足動物群集に与える影響		
2016.3	ヤドリウメマツアリの雄の交尾戦略について		
2016.3	菌食性双翅目幼虫が宿主外生菌根菌の胞子散布に与える影響		
2015.3	クロベンケイガニ(<i>Chiromantes dehaani</i>)の分布を規定する要因		
2015.3	菌食性ショウジョウバエによる担子菌胞子散布の検証		
2015.3	双翅目昆虫群集によるテングタケ属子実体の利用パターン		
2014.3	ホオジロの囁りのパターンと繁殖行動について		
2014.3	石川県におけるニホンカモシカ <i>Capricornis cripus</i> の生息空間特性の解析		
2013.3	アリの創設期における初期ワーカーの生産・分化機構		
2013.3	石川県の里山におけるアカガエル2種の生態比較、とくに分布、生活史、食性		
2013.3	水田発生性蚊科幼虫の個体群生態学的研究		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			

修了年月	タイトル
2021.3	無農薬稲作への取り組みがトンボ類の多様性に与える影響
2020.9	Studies of coexistence mechanism between <i>Aedes albopictus</i> and <i>Aedes flavopictus</i> (ヒトスジシマカとヤマダシマカの2種の共存機構の研究)
2019.9	A comparative study of <i>Aedes albopictus</i> becoming a global pest and its native relative <i>Aedes flavopictus</i> (世界的な害虫となっているヒトスジシマカとその近縁種ヤマダシマカの比較研究)
2018.9	白山における地表性ゴミムシ類の分布特性
2018.9	北陸地方における淡水性カメ類の生態-特に外来種の侵入が群集構造に与える影響について-
2017.9	Latrine-site use of small-clawed otters (<i>Aonyx cinereus</i>) in tropical rice fields (熱帯地域の水田地帯におけるコツメカワウソ(<i>Aonyx cinereus</i>)の排糞場所利用)
2015.9	Production and dispersal of basidiospores of <i>Ganoderma applanatum</i> in Japan (日本におけるコフキササルノコシカケの担子胞子の生産と散布)
2014.9	Diversity and structure of bee pollination system in different satoyama habitats (異なる里山環境におけるハナバチ類による送粉系の多様性と構造)
2014.9	個体群の動態からみた爬虫類・両生類の保全生態学的研究 -侵略的外来種グリーンアノールと保全対象種モリアオガエルの事例-
2012.9	里山の棚田復元地におけるクモ類と昆虫類の多様性
2012.9	Vector incrimination in malaria endemic hilly area in Bangladesh (バングラデシュ国マラリア流行地丘陵部のマラリア媒介蚊種の解明)
2011.9	Effects of temperature and diet on development and interspecies competition of <i>Aedes aegypti</i> and <i>Aedes albopictus</i> (Diptera: Culicidae) (温度と栄養条件がネッタシマカとヒトスジシマカの個体群成長と種間関係に及ぼす影響)
研究室連絡先メールアドレス	都野展子 <tuno*at* staff.kanazawa-u.ac.jp> 大河原恭祐 <kyohsuke*at* staff.kanazawa-u.ac.jp> 西川 潮 <usio*at* se.kanazawa-u.ac.jp>